

# ひと街しごと

平成15年(2003)6月(年4回発行)

発行：(株)印刷紙工

札幌市中央区南15条西18丁目

Tel(011)561-3597

編集：ひと街しごと刊行会

札幌市中央区北1条西17丁目

北海道不動産会館4階

(有)編集工房海内 Tel(011)623-6652

No. 4



## ちっとも不便じゃ

## ながったね

歴史はいつも未来へのみちしるべです。  
世の中の進むスピードと自分の生きていくペースが、  
少し合わなくなってきたなと感じ始めたら、  
思い出カードを一枚一枚めくっていきましょう。

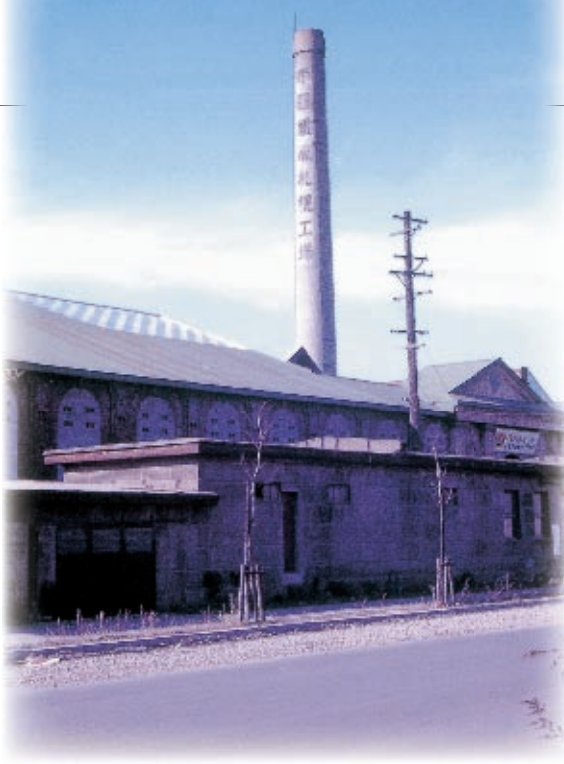


ご飯を炊くのに電気炊飯器より文化鍋の方がおいしく炊き上がるとわかっていても、つい電気を使っています。そういえばかまどに薪をくべていた時代だったあつたんですね。飯に不便を強いられるとして、何年くらい前の暮らしに戻れるでしょうか。思えば遠くへ来たものですが、進んだのか退化したのかが問題です。



### 思い出カード

生活編



赤レンガの倉庫、高い煙突——なつかしい人も多いのでは（同右。ともに札幌市写真ライブラリー提供）

東区北七条東一丁目にあった旧帝国製麻工場跡（昭和四十四年撮影）



## 亜麻と藍

# “札幌産”の繊維と染料 栄枯盛衰を 地名が語る

亜麻引く、藍刈る——

どちらもすでに見ることのできない夏の季語。しかしかつて北海道の、しかも札幌市に、

こんな季節感あふれる

日本の原風景があったというのですから驚きです。

ともに北区に、その名残があるのも

何かの偶然でしょうか。

どこまで進むか想像のつかないコンピュータ世紀に、

こうした植物の栽培に

取り組んだ人たちの姿がなつかしい……。



向こうにそびえるのは中央郵便局、手前はボウリング場と昔の面影はない

亜麻（リネン）は、苧麻（ちよま）や黄麻（ジュート）とともに麻と呼ばれている繊維作物です。主産地はヨーロッパ、ロシア、中国。その肌触りや清涼感、吸湿性のよいことから、主に衣料や寝装具などに使われています。

日本に輸入されたのは幕末で、すぐに開拓使、北海道庁の推奨するところとなりました。札幌に北海道製麻会社（後の帝国製麻、現在の帝国繊維）が設立されたのは明治二十年（一八八七）。札幌市東区北七条東一丁目の赤レンガ造の工場で、道内各地で生産された亜麻を製品化していききました。

しかし戦後は低コストの製品や化学繊維に押され、赤レンガ工場の閉鎖が昭和三十八年。市民に惜しまれながらの解体は同五十三年のこと。いまではテイセンボウルの名が昔をしのばせます。

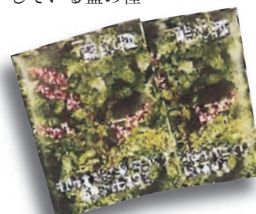
北区麻生町（あさぶ）一帯は、その名のとおり同社琴似製線工場を中心に亜麻が栽培されていたところ。札幌工場より早い昭和三十二年に操業を停止し、跡地を取得した道住宅供給公社が同年、宅地として分譲しました。

同じく今日では民芸品や一部の愛好家の間で伝えられている藍染。その藍が栽培されていたのは北区篠路地区。ニュータウンあいの里の名もこれに因んでおり、北区では藍染め文化を後世に残そうと毎年、区民に藍の種を配布しています。



藍製造に携わった人の功績を称える頌徳碑（北区篠路町拓北）

北区が毎年市民に配布している藍の種



徳島県出身の滝本五郎が北海道開拓を志して、ここで藍栽培を始めたのは明治十六年（一八八三）。藍はもともと同県の特産ですが、次第に栽培面積を拡大して藍玉製造工場も建設。独特の小作制度を取り入れるなどして、北海道の藍の価値を高めていきました。

しかしこちらも日清戦争以後はインド製品の隆盛で衰退してしまいました。滝本五郎が設立した篠路興産株式会社の名前は、数年前までは興産社町内会として残っており、篠路町拓北には同社有志がその功績を称えて立てた碑もあります。

亜麻栽培を本道に根付かせた功労者、吉田健作は福岡県の出身です。二人とも西日本の人というのも奇妙な偶然です。

# 来た道、 行く道。

様々な先達がいるからこそ  
二十一世紀があるんだよ——  
スローコミュニケーションを求めて。

**時** 代がいくら進んでも、まだまだ  
だ手作業でなければ出来ない  
ものの一つがバッジ(記章)。札幌で  
このバッジを作って半世紀という宝  
住幹雄さん(六六)は、十五歳でこの道  
に入り、昭和四十年に現在地で独立し  
ました。

息子さんも含めて六人の従業員が  
いますが、「技術が要るし機械化もで

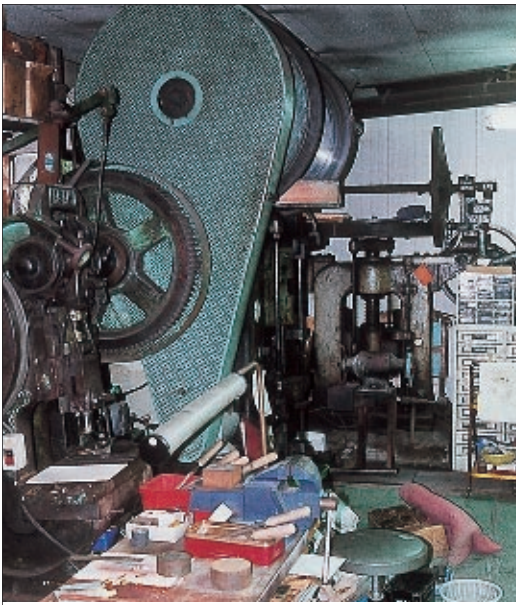
ほづみ  
**宝住幹雄**さん——札幌市  
宝住メタル商会



きないので、あまりやる人はいない」  
(宝住さん)とか。デザインから原板  
(真ちゅう)製作、型(鋼)に写して  
プレス(注文の素材)。この後、一個  
一個に研磨、メッキ、色付け、足付け(ネ  
ジ)といった手を  
施していき、全体  
では約二十工程も  
あると聞けば、そ  
れもうなすけませ  
道内の学校の記  
章や札幌雪まつり  
の公式バッジは毎年  
こちらで。そのほか  
社章、キーホルダー、  
ネクタイピン、ネー  
ムプレートなど様々  
な注文がきます。お

## 「1個に20工程も。 バッジ作り50年、 趣味の自転車も45年」

静かな住宅街にある工場。  
小規模ながら町工場の雰囲気。機械にも年季が



静かな住宅街にある工場。  
小規模ながら町工場の雰囲気。機械にも年季が



札幌雪まつりに公式バッジが作られ  
るようになって以来、毎年製作

客の要望に添えないことはまずない  
そうですが、いま思案中なのは今年の  
ツールド北海道の記念タイピン。前例  
のない金属と特殊な石との組み合わせ  
です。

ツールド北海道といえれば前々回、こ  
こで紹介した小野盛秀さんとは古い  
おつきあい。宝住さんも何と自転車歴  
四十五年。道内では最も歴史のあるア  
カシヤサイクリングクラブのメンバ  
ーで、国内外を走破すること数知れず。  
沖繩にはもう十回以上行っています。

「休業時代に苦労したから残業は一  
切しない。土日、祝日もきちんと休む」  
主義が、自転車と泡盛とイタリアワイ  
ンをこよなく愛する生き方にも現れて  
いるようです。

(東区北三十三条東三丁目)

本欄への自薦、他薦を  
お待ちしております。

## 長老は元気? 「業界史」の 編集を急ごう



小紙に仕事の話を残したいと  
東区の桶店を訪ねたときのこと  
です。かなり高齢のご主人によ  
ると「自分の代でもう五十年  
父親の代からやっているが、息  
子も亡くなって後継者はいな  
い」とのこと。札幌市内に桶職  
人はまだ二、三人いるが店を構  
えているのは自分一人と寂しそ  
うでした。

様々な業界で仕事の歴史を  
知る人が次第に少なくなってい  
ますが、そうした業界団体の多  
くは、ここ何年かで設立三十周  
年、五十周年といった節目の年  
を迎えるところが多いようです。  
それを機会に業界史をまとめ  
ることをおすすめします。長老  
といわれる人が元気なうちに、  
写真・資料類が散逸してしまわ  
ないうちに、あるいはデジタル  
処理でタイジエストしか残らな  
いよつなことになる前に、編

集を急ぐ理由もあります。  
その記念誌の一般的な内容例  
をあげておきましょう。

- ①表紙(創立〇周年記念誌)
  - ②刊行挨拶(理事長、会長)
  - ③祝辞(自治体首長、関係団  
体、OB)
  - ④グラビア(写真ページ。歴  
代役員、古い写真、資料類)
  - ⑤座談会(古き、若手による  
来し方行く末)
  - ⑥あゆみ(創立から今日まで)
  - ⑦年表
  - ⑧資料
- といった流れになります。  
発行が決まったらさっそく編  
集委員会を立ち上げましょう。  
各委員には日常の仕事もあり、  
不慣れた作業です。刊行までに  
半年から一年はかかりますので、  
外部スタッフに加わってもらう  
こともごく一般的です。

(ウツシネ)

## 本・づ・く・り 相談室



### Q どのくらい書けば “本らしい本”に――

自分史の構想がほぼ固まり、書けるところからブロックごとにまとめていってもよいのではと思っています。しかし全体でどのくらい書けば見栄えのする本になるのか見当が付きません。400字詰め原稿用紙で何枚くらい書けばよいのでしょうか。

しよう。書くことを仕事にしている人でさえ、400字詰めで100枚書くのはかなり大変なことなのですから。

その100枚書いて何ページくらいになるかといえば、判型や文字の組み方で多少の差はありますが、おおよそ70ページというところでしょうか。つまり1ページ当り約600字という計算です。これに扉や目次、写真などを加えて100ページ弱です。手近にある本でその厚さを確かめてみるとよいでしょう。

原稿が少ないなりにポリウム感を出すなら、本文に少し厚めの紙を使ったり、製本にお金をかけたという方法もあります。

### A 1ページあたり 600字見当で

書きたいことを書く、伝えたいことを述べる、人生のまとめだから何でも書くということから考えると、予算と時間の許す限り何枚書いてもよいのです。

しかし、日頃からこうした作業に親しんでいなければ、書くということがいかに大変かもわかることで

## 調べる

北海道開拓の村

### 50余棟で昔知る 明治・大正の建物

北海道の人口は減っているのに札幌市の方は増え続け、いまや道民の三人に一人は札幌市民だそうです。

農山村や漁村で苦勞した祖父母や曾祖父母の時代の暮らしはどんなだったろうか。札幌に住んでいて田舎に帰る時間もないし、帰っても話の聞ける人も建物もない――こんなときにたずねてみたいのが

北海道の人口は減っているのに札幌市の方は増え続け、いまや道民の三人に一人は札幌市民だそうです。

北海道開拓の村です。明治・大正期に道内で建築された五十余棟の建物を、大きく市街地群、山村群、農村群、そして漁村群の四つに分けて復元・保存する、いわば野外博物館。本道の暮らしや文化の変遷がよくわかりま

す。(写真は南一条交番) これはという建物を、メモのほかカメラやスケッチブックなどに記録して、原稿を書くときに役立てましょう。

●所在地／札幌市厚別区厚別町小野幌五〇

●電話／八九八一・二六九一

## 出版ニュース



山田緑光句集  
朱円

粒俳句会



(A5判  
120ページ)

著書の出身地は斜里町朱円。その朱円地区で八百年ほ

ど前に起きたとされる先住民族の争いに関する考察を巻末に、八章に分かれる句集です。各章のタイトルが、鬼が泣く、空素がふえる、鮭の反乱などであるように、著者は本道現代俳句会の重鎮。昭和六十三年には第一回北海道現代俳句賞を受賞しています。

カラフト海流とすぐろく自分を呼んでいる秋のなか弥陀はいつまでも居ねむり

朝川衣枝女

### 虹の橋

初句集は傘寿を迎えて。人生の折々の苦楽とともに著者の感慨が伝わってきます。



(四六判  
220ページ)

長寿筭ふたりに割るや木の芽晴子と占うトランプつらら芽つ夜

いずれも結婚後の幸せな生活のひとつま。

手花火やちちの思い出には触れず

昭和六十三年に夫を亡くしています。そしてさらに人生を見つめて、生きることに余生などなし

秋なすび

点ではつきり決めておくべきでしょう。

作る側の熱意と応える側の誠意が通じ合つてこそその本づくりです。

■本づくりおしゃべり会  
昨春秋、本づくりに関心をもつて頂こうと三回開催した「本づくりおしゃべり会」を、近いうちにまた開こうと計画しています。改めてお知らせいたします。

■小紙をお送りします  
小紙を希望の方には、定期的に無料でお送りしております。印刷紙工までお申し込みを。

■出前します  
五人以上のお集まりで会場をご用意いたします。

制作費、費用分担、流通方法、宣伝内容など、著者側はすべてに素人なだけに、最初の契約の時

## 短信

### 熱意に誠意で応える

“あなたの原稿を本にします。”というようなキャッチフレーズで業績を伸ばしている出版社の広告出稿量が、業界第一位に達しているそうです。

その一方で、こうしたシステムを導入している出版社とのトラブルも増加しているとか。

制作費、費用分担、流通方法、宣伝内容など、著者側はすべてに素人なだけに、最初の契約の時